

「古事記と日本書紀」―国生み神話をよむ―

群馬県立女子大学教授 北川 和 秀

◎古事記

於是、天つ神諸の命以ちて、伊耶那岐命・伊耶那美命の二柱の神に詔らさく、「是の多陀用弊流国を修理め固め成せ」とのらして、天沼矛を賜ひて、言依さし賜ひき。故、二柱の神、天浮橋に立たして、其の沼矛を指し下して画かせば、塩許々袁々呂々迹画き鳴して、引き上げます時、其の矛の末より垂落る塩之累積、鳴と成りき。是淤能基呂嶋なり。

其の嶋に天降り坐して、天之御柱を見立て、八尋殿を見立てましき。於是、其の妹伊耶那美命を問ひて曰らさく、「汝が身は如何に成れる。」とのらせば、答へて白さく、「吾が身は成り成りて成り合はぬ処一処在り。」とまをす。尔して、伊耶那岐命詔らさく、「我が身は成り成りて成り合はぬ処一処在り。故、此の吾が身の成り餘れる処以ちて、汝が身の成り合はぬ処に刺し塞ぎて、国土を生み成さむと以為ふ。生むこと奈何に。」とのらせば、伊耶那美命、答へて曰さく、「然善けむ。」とまをす。尔して、伊耶那岐命詔らさく、「然あらば、吾と汝とは是の天之御柱を行き廻り逢ひて、美斗能麻具波比せむ。」如此期りて、乃ち詔らさく、「汝は右より廻り逢へ。我は左より廻り逢はむ。」とのらす。約り竟へて廻る時、伊耶那美命先づ「阿那迩夜志、愛袁登古袁。」と言ふ。後に、伊耶那岐命「阿那迩夜志、愛袁登古袁。」と言ふ。各言ひ竟へし後、其の妹に告らして曰く、「女人先づ言へるは不良し。」とのらす。然あれども、久美度迹興して生みませる子は、水蛭子。此の子は葦船に入れて流し去。次に淡嶋を生みましき。是も子の例には入らず。

於是、二柱の神議りて云く、「今吾が所生める子不良し。猶天つ神の御所に白すべし。」といひて、即ち共に参上り、天つ神の命を請はす。尔して、天つ神の命以ちて布斗麻迩尔ト相へて詔らさく、「女先づ言へるに因りて不良し。亦還り降りて改め言へ。」とのらす。故尔して、返り降りまして、更に其の天之御柱を往き廻りますること先の如し。

於是、伊耶那岐命、先づ「阿那迩夜志、愛袁登古袁。」と言ふ。後に妹伊耶那美命、「阿那迩夜志、愛袁登古袁。」と言ふ。如此言ひ竟へて、御合して生みませる子は、淡道之穂之狭別嶋。次に、伊予之三名嶋を生みましき。此の嶋は、身一つにて面四つ有り。面毎に名有り。故、伊予国は愛比売と謂ひ、讚岐国は飯依比古と謂ひ、粟国は大宜都比売と謂ひ、土左国は建依別と謂ふ。次に、隠伎之三子嶋を生みましき。亦の名は天之忍許呂別。次に、筑紫嶋を生みましき。此の嶋も、身一つにて面四つ有り。面毎に名有り。故、筑紫国は白日別と謂ひ、豊国は豊日別と謂ひ、肥国は建日向日豊

大八嶋関係地図



久士比泥別と謂ひ、熊曾国は建日別と謂ふ。次に、伊岐嶋を生みましき。亦の名は天比登都柱と謂ふ。次に、津嶋を生みましき。亦の名は天之狭手依比売と謂ふ。次に、佐度嶋を生みましき。次に、大倭豊秋津嶋を生みましき。亦の名は天御虚空豊秋津根別と謂ふ。故、此の八嶋先づ所生みませるに因りて、大八嶋国と謂ふ。然して後に、還り坐す時、吉備児嶋を生みましき。亦の名は建日方別と謂ふ。次に、小豆嶋を生みましき。亦の名は大野手比売と謂ふ。次に、大嶋を生みましき。亦の名は大多麻流別と謂ふ。次に、女嶋を生みましき。亦の名は天一根と謂ふ。次に、知訶嶋を生みましき。亦の名は天之忍男と謂ふ。次に、両児嶋を生みましき。亦の名は天両屋と謂ふ。吉備児嶋より天両屋嶋まで并せて六嶋。

【四の〇】

伊奘諾尊・伊奘冉尊、天浮橋の上に立たして、共に計ひて曰はく、「底下に豈国無けむや」とのたまひて、迺ち天之瓊瓊は、玉なり。此をば努と云ふ。矛を以て、指し下して探る。是に滄溟を獲き。其の矛の鋒より滴瀝る潮、凝りて老の嶋に成れり。名けて礮馭慮嶋と曰ふ。二の神、是に、彼の嶋に降り居して、因りて共為夫婦して、洲国を産生まむとす。便礮馭慮嶋を以て、国中の柱柱、此をば美篋旨遷と云ふ。とて、陽神は左より旋り、陰神は右より旋る。国の柱柱を分巡りて、同じく老面に会ひき。時に、陰神先づ唱へて曰はく、「憲哉、可美少男に遇ひぬること」とのたまふ。少男、此をば鳥等孤と云ふ。陽神悦びずして曰はく、「吾は是男子なり。理当に先づ唱ふべし。如何ぞ婦人にして、反りて言先つや。事既に不祥し。以て改め旋るべし」とのたまふ。是に、二の神却りて更に相遇ひたまひぬ。是の行は、陽神先づ唱へて曰はく、「憲哉、可美少女に遇ひぬること」とのたまふ。少女、此をば鳥等咩と云ふ。因りて陰神に問ひて曰はく、「汝が身に何の成れるところか有る」とのたまふ。対が身に亦雄の元といふ処有り。吾が身の元の処を以て、汝が身の元の処に合せむと思欲ふ」とのたまふ。是に、陰陽始めて違合して夫婦と為る。産む時に至るに及びて、先づ淡路洲を以て胞とす。意に快びざる所なり。故、名けて淡路洲と曰ふ。迺ち大日本日本、此をば耶麻騰と云ふ。下皆此に效へ。豊秋津洲を生む。次に伊豫二名洲を生む。次に筑紫洲を生む。次に億岐洲と佐度洲とを双生む。世人、或いは双生むこと有るは、此に象りてなり。次に越洲を生む。次に大洲を生む。次に吉備子洲を生む。是に由りて、始めて大八洲国の号起れり。即ち対馬嶋、壱岐嶋、及び処の小嶋は、皆是潮の沫の凝りて成れるものなり。亦是、水の沫の凝りて成れるとも曰ふ。

【四の1】

一書に曰はく、天神、伊奘諾尊・伊奘冉尊に謂りて曰はく、「豊葦原の千五百秋の瑞穂の地有り。汝往きて脩すべし」とのたまひて、迺ち天瓊戈を賜ふ。是に、二の神、天上浮橋に立たして、戈を投して地を求む。因りて、滄海を画して、引き挙ぐるときに、即ち戈の鋒より垂り落つる潮、結りて嶋と為る。名けて礮馭慮嶋と曰ふ。二の神、彼の嶋に降り居して、八尋之殿を化作つ。又天柱を化堅つ。陽神、陰神に問ひて曰はく、「汝が身に何の成れるところか有る」とのたまふ。対へて曰はく、「吾が身に具り成りて、陰の元と称ふ者一処有り」とのたまふ。陽神の曰はく、「吾が身に亦具り成りて、陽の元と称ふ者一処有り。吾が身の陽の元を以て、汝が身の陰の元。に合はせむと思欲ふ」と、云爾。即ち天柱を巡らむとして約束りて曰はく、「妹は左より巡れ。吾は当に右より巡らむ」とのたまふ。既に分れ巡りて相遇ひたまひぬ。陰神、乃ち先づ唱へて曰はく、「妍哉、可愛少男を」とのたまふ。陽神、後に和へて曰はく、「妍哉、可愛少女を」とのたまふ。遂に為夫婦して、先づ蛭児を生む。便ち葦船に載せて流りてき。次に淡洲を生む。

此亦児の數に充れず。故、還復りて天に上り詣でて、具に其の状を奏したまふ。時に天神、太占を以て卜合ふ。乃ち教でて曰はく、「婦人の辞、其れ已に先づ揚げたればか。更に還り去ね」とのたまふ。乃ち時日を卜定へて降す。故、二の神、改めて復柱を巡りたまふ。陽神は左よりし、陰神は右よりして、既に遇ひたまひぬる時に、陽神、先づ唱へて曰はく、「妍哉、可愛少女を」とのたまふ。陰神、後に和へて曰はく、「妍哉、可愛少男を」とのたまふ。然して後に、宮を同くして共に住ひて児を生む。大日本豊秋津洲と号く。次に淡路洲。次に伊豫二名洲。次に筑紫洲。次に億岐三子洲。次に佐度洲。次に越洲。次に吉備子洲。此に由りて、之を大八洲国と謂ふ。

【四の2】

一書に曰はく、伊奘諾尊・伊奘冉尊、二の神、天霧の中に立たして曰はく、「吾、国を得む」とのたまひて、乃ち天瓊矛を以て、指し垂して探りしかば、礮馭慮嶋を得たまひき。則ち矛を抜けて、喜びて曰はく、「善きかな、国の在りけること」とのたまふ。

【四の3】

一書に曰はく、伊奘諾・伊奘冉、二の神、高天原に坐しまして曰はく、「当に国有らむや」とのたまひて、乃ち天瓊矛を以て、礮馭慮嶋を画り成す。

【四の4】

一書に曰はく、伊奘諾・伊奘冉、二の神、相謂りて曰はく、「物有りて浮膏の若し。其の中に蓋し国有らむや」とのたまひて、乃ち天瓊矛を以て、探りて一の嶋を成す。名けて礮馭慮嶋と曰ふ。

【四の5】

一書に曰はく、陰神先づ唱へて曰はく、「美哉、善少男を」とのたまふ。時に、陰神の言先つるを以ての故に、不祥しとして、更に復改め巡る。則ち陽神先づ唱へて曰はく、「美哉、善少女を」とのたまふ。遂に合交せむとす。而も其の術を知らず。時に鶴、鶺鴒有りて、飛び来りて其の首尾を揺す。二の神、見して学ひて、即ち交の道を得つ。

【四の6】

一書に曰はく、二の神、合為夫婦して、先づ淡路洲・淡洲を以て胞として、大日本豊秋津洲を生む。次に伊豫洲。次に筑紫洲。次に億岐洲と佐度洲とを双生む。次に越洲。次に大洲。次に子洲。

【四の7】

一書に曰はく、先づ淡路洲を生む。次に大日本豊秋津洲。次に伊豫二名洲。次に億岐洲。次に佐度洲。次に筑紫洲。次に壱岐洲。次に对馬洲。

【四の8】
一書に曰はく、礮馭慮嶋を以て胞として、淡路洲を生む。次に大日本豊秋津洲。次に伊豫二名洲。次に筑紫洲。次に吉備子洲。次に億岐洲と佐度洲とを双ふたごに生む。次に越洲。

【四の9】
一書に曰はく、淡路洲を以て胞として、大日本豊秋津洲を生む。次に淡洲。次に伊豫二名洲。次に億岐三子洲。次に佐度洲。次に筑紫洲。次に吉備子洲。次に大洲。

【四の10】
一書に曰はく、陰神先づ唱へて曰はく、「妍哉、可愛少男を」とのたまふ。便ち陽神の手を握りて、遂に為夫婦みとのまぐはひして、淡路洲を生む。次に蛭児。

古事記	四の0	四の1
天神の命令 オノゴロジマ	× オノゴロジマ	天神の命令 オノゴロジマ
天の御柱・八尋殿 身体についての問答 柱を廻る ♂は左・♀は右 ♀が発言 ♂が答える ♂のコメント 水蛭子・淡島誕生	× 国中の柱 × 柱を廻る ♂は左・♀は右 ♀が発言 ♂が不満を表明	八尋殿・天の御柱 身体についての問答 柱を廻る ♂は右・♀は左 ♀が発言 ♂が答える
天神に聞く 占い 天神の指示	× × ×	天神に聞く 占い 天神の指示
柱を廻る ♂は左・♀は右 ♂が発言	柱を廻る ♂は左・♀は右 ♂が発言 身体についての問答	柱を廻る ♂は左・♀は右 ♂が発言
♀が答える 大八嶋を生む	× 大八嶋を生む	♀が答える 大八嶋を生む

「大八島国」記紀対照表

古事記	大八島										胞	日 本 書 紀
	豊大 秋倭 津嶋	佐 度 嶋	津 嶋	伊 岐 嶋	筑 紫 嶋	隱 三 子 嶋	伊 予 之 嶋	之 狭 別 之 嶋	豊大 秋日本 津洲	豊大 秋日本 津洲		
四の0	吉備子洲	大洲	越洲	佐度洲	億岐洲	筑紫洲	伊豫二名洲	豊秋津洲	大日本洲	淡路洲	淡路洲	四の0
四の1	吉備子洲	越洲	佐度洲	億岐三子洲	筑紫洲	伊豫二名洲	淡路洲	豊秋津洲	大日本洲	淡路洲	淡路洲	四の1
四の6	子洲	大洲	越洲	佐度洲	億岐洲	筑紫洲	伊豫洲	豊秋津洲	大日本洲	淡路洲・ 淡路洲	淡路洲	四の6
四の7	对馬洲	壹岐洲	筑紫洲	佐度洲	億岐洲	伊豫二名洲	豊秋津洲	淡路洲	大日本洲	淡路洲	淡路洲	四の7
四の8	越洲	佐度洲	億岐洲	吉備子洲	筑紫洲	伊豫二名洲	豊秋津洲	淡路洲	大日本洲	礮馭慮嶋	淡路洲	四の8
四の9	大洲	吉備子洲	筑紫洲	佐度洲	億岐三子洲	伊豫二名洲	淡路洲	豊秋津洲	大日本洲	淡路洲	淡路洲	四の9